

育て！心豊かでたくましい
だいせんの子



○アンケート調査の目的
・読み聞かせの実態を明らかにすることで、問題点の改善を目指すとともに、子どもを取り巻く大人の意識の向上につなげる
・調査結果を基に、読み聞かせをはじめ、子どもが読書に親しむ機会の充実を図り、読書習慣の形成を目指す

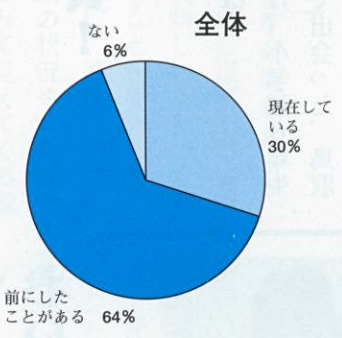
○アンケート調査の対象
①小学2、4、6年生、中学2年生の保護者
②小学2、4、6年生、中学2年生

②保護者

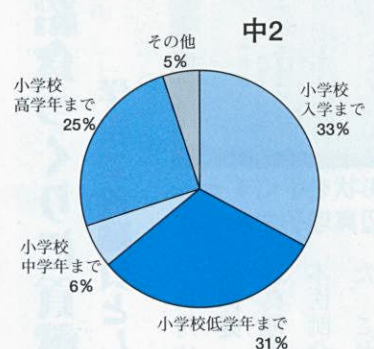
アンケート回収率

	保護者
回答者数	346人
回収率	61%

1. あなたは、お子さんに読み聞かせをしたことがありますか？



2. 読み聞かせをしたことがある方は、いつ頃までしておられましたか？

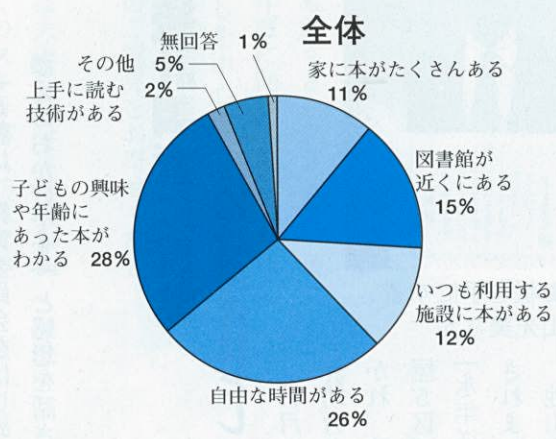


* 1、2、3、の質問項目から、多くの保護者が、小学校低学年までは読み聞かせを行ってきておられます。そして、親子がふれあう心地よさを感じていらっしゃるようです。

3. 読み聞かせを続けられて良かったことは何ですか？

- ①ふれあう機会が増えた 59人
親子のスキンシップがとれた。
子どもとの会話が aumentata.
- ②本が好きになった 46人
進んで本を読み、兄弟に読み聞かせをするようになった。
- ③生活が落ち着いてきた 17人
集中力がついてきた。
落ち着いて話が聞けるようになった。
- ④その他 25人
就寝時間が早くなった、など。

4. 家庭で読み聞かせをするには、特にどんなことが必要だと思われますか？



* 「自由な時間があること」と答えた方が26%、その他で「心と生活の余裕が必要」と答えた方が14人ありました。また、就学前部会で、読み聞かせはほとんど母親が行い、母親の負担が大きいという意見もありました。母親をはじめとして保護者のゆとりある生活が読み聞かせには必要であると考えられます。

昨年12月に策定した「大山町子どもの読書活動推進計画」を受けて、家庭・地域、教育機関、行政が連携して子どもの読書活動を支援していくため、第1回子ども読書活動推進委員会を開きました。
委員会では、読書習慣の確立にかかせない「読み聞かせ」の意義と重要性を再確認し、読み聞かせの実態を把握するため、アンケート調査を行うことになりました。
今回は、アンケート結果の一部とこの結果を受けた第2回推進委員会の協議内容をお知らせします。

読み聞かせについてのアンケートを行いました